

ねらい 「犯罪やその危険について理解し、安全に行動できるようにする」

指導の
ポイント

地域・社会での犯罪被害とその防止

地域や社会での犯罪被害の現状や、犯罪被害の防止に関する活動や対策などを知り、犯罪防止における、自分たちの責任と役割について考え、安全に行動できるようにする。

犯罪被害の現状を知り

目指す
子どもの姿

犯罪被害にあわないよう行動する

○地域で起きた犯罪被害の状況について知る

○犯罪から身を守るための心構え、具体的な行動について知る

学習の
ポイント

地域の現状と
安全な行動

犯罪被害防止に
向けての地域の活動

自分たちの責任と役割

- ・誘拐犯罪等の起こりやすい時間帯・場所・手口を知り、犯罪被害にあわないよう、日頃から気を付けて行動する。
- ・被害にあった場合の通報等適切な行動ができるようにする。

- ・自治会など地域の犯罪防止活動の様子を調べる。
- ・防犯対策について理解し、安全な生活の仕方を心掛ける。
- ・地域の犯罪防止活動への参加・協力をする。

- ・犯罪防止における自分たちの責任と役割を知り、適切に行動する。
- ・犯罪から身を守るための方法を知り、犯罪被害にあわないように行動する。

自助・共助
のポイント

犯罪被害の危険を予測し、回避する

被害防止のために必要な知識や能力を身に付ける

学習支援のポイント

- ・地域や社会生活における犯罪被害の現状、原因及び防止策について理解を深め、防犯上の課題に対して、的確な思考・判断に基づく適切な行動がとれるようにする。
- ・日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、回避し、安全な行動をとることができるようにするとともに、自ら危険な環境を改善することができるようにする。
- ・学校、地域の防犯に関するボランティア活動等の大切さについても理解を深め、参加・協力できるようにする。

実践例 「犯罪の危険を予測し、被害にあわないようにしよう」

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

<実践に結びつける>

<学級活動>

- ・ 節度ある生活を送るなど、現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。
- ・ 安全に関しては、日常生活に潜む様々な危険を予測したり、問題解決の方法を話し合ったりすることで、安全に保つために必要な事柄への理解を深める活動が考えられる。

<学校行事>健康安全・体育的行事

- ・ 安全に関する行事については、犯罪などの非常事態に際し、沈着、冷静、迅速、的確に判断して対処する能力を養い、自他の安全を確保することのできる能力を身に付けること。また、防犯や情報への適切な対処や行動について理解させ、正しく判断し、行動できる態度を身に付けること。

日常的な安全教育

朝の会・帰りの会等で

<繰り返し指導>

- ・ 登下校は、できるだけ複数で行動するようにする。
- ・ 部活動の朝練習や休日練習の際の登下校も、できるだけ複数で行動する。
- ・ 帰宅後、外出する時には家の人に行き先、用件、帰宅時間を必ず知らせる。
- ・ 校外で対人的なトラブルに関わっている場合は、学校や、周りの大人に相談する。
- ・ 日頃から、交番や公共施設、「こども110番の家」等、逃げ込めるところを確認しておく。
- ・ 地域や通学路周辺の変化や不審者に関する情報に注意を向け、情報の共有をする。
- ・ 地域の防犯に関するボランティアに参加することで、地域の犯罪防止活動に協力する。

防犯教室等（警察や防犯協会などとの連携）

定期的な安全教育

<犯罪から身を守るための具体的手立て>

○知らない人に声をかけられたら（ロール・プレイングなどによる訓練）

→ 相手が自分を知っていても、優しくそうに見えても、困っているようであっても、知らない人であれば「いやです」「わかりません」と言って、すぐに逃げる（相手が車に乗っていたら、車の進行方向と逆方向へ逃げる）。捕まりそうになったら、大声で助けを呼ぶ。防犯ブザーを鳴らす。

○一人で歩いているとき

→ 周囲の様子に気を配る。歩きスマホはしない。（歩きスマホの危険の体験学習など）

○危ない場所に注意する。（危険予測トレーニングなど）

→ 高い塀が続く道 地下道 高架下 路上駐車が多いところ 田んぼや畑の中の1本道

＊ 塾や習い事の帰りなど、人通りの少ない時間帯は特に注意する。

日頃から、地域の不審者情報や犯罪情報に対する意識を高く持ち、いざという時にどのような行動をとれば良いのかを考えさせ、とっさに判断し行動できる力、危険を予測し回避する力を育成する。

ねらい 「性暴力の例や背景を理解し、安全な意思決定ができるようにする」

指導の
ポイント

性暴力が起こる背景と被害に遭った場合の対応方法

性暴力の現状を知り、性暴力にあわないように行動する。自分が被害に遭った場合に相談できるようにする。

目指す
子どもの姿

お互いの気持ちを尊重し

より望ましい人間関係を構築する

- 性暴力の例や背景を理解し、デートDV、SNSで見えない相手とつながることの危険性について考える
- 性暴力から身を守るための心構えを知り、具体的な行動をする

学習の
ポイント

よりよい人間関係の構築	性暴力とは	身を守るための行動
・よりよい人間関係とはどのようなものか考える。 ・目に見えない人との距離感の概念について考える。 ・距離感が守られていないときはどのようにすればよいか考え、自他の距離感を守ることの大切さを理解する。	・性暴力の種類(デートDV等)や起こる背景を知り、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう行動する。 ・被害に遭うと心身に様々な傷を負うこと、被害者が訴えにくい状況にあることを理解する。	・性暴力から身を守るための方法を知る。 ・性暴力にあった場合や友人から相談された場合、信頼できる人に相談するなど、適切な行動ができるようにする。

自助・共助
のポイント

自他の距離感を守る行動

心と体には距離感があり、相手の気持ちを尊重した意思決定をする

指導上の留意点

- ・性暴力は、年齢や性別を問わず起こることを伝える。
- ・性暴力をテーマとして取り扱う際は、すでに被害を受けている生徒がいるかもしれないと意識し、授業の中で、二次被害を受けることのないよう配慮が必要である。
- ・気分が悪くなった場合は授業中にいつでも退席してよいことを伝えるとともに、配慮が必要と思われる生徒がいれば授業中の様子を特に注意深く見守る。

実践例 「性暴力から身を守るための心構えを知り、行動しよう」

<正しい知識の習得>

各教科における安全教育

<思考力・判断力の育成>

保健体育(保健)

- ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- ・エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。

特別の教科 道徳

〔友情・信頼〕

- ・友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

日常的な安全教育

朝の会・帰りの会等で

<繰り返し指導>

<被害防止啓発資料>

- ・県や警察等が作成した被害防止の啓発資料を配付する際に、自分たちの行動を振り返り、加害者、被害者、傍観者にならないための行動を考えさせる。

<被害を受けたり、相談されたりした場合の対応>

- ・被害を受けた場合や友達から相談された場合には、担任、養護教諭、スクールカウンセラー、保護者など信頼できる人に相談するよう指導する。

定期的な安全教育

特別活動

学級活動「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

- ・男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。
- ・心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする

防犯教室等(警察や防犯協会などとの連携)

- 性暴力の例や背景を理解し、デートDV、SNSで見えない相手とつながることの危険性について考え、安全な意思決定ができるように考えさせる。